# 茨城県職員欧州研修視察団に参加して

統計課　海老原　俊　昌

## 1．はじめに

筑波においては万博が開かれ，海外からの参加出展はもちろん来場者も多く，国際色豊かな都市となっているところである。

このような最中に県職員によるヨーロッパ4ヵ国への海外研修が実施されることとなり，光栄にも団員の一員に加えていただくことができた。世界に開かれた茨城県の行政マンとして，少しでも視野を広めることが目的である。

7月12日，視察団は成田空港内で結団式を行い，未知の国スペイン・オーストリア・イギリス・フランス四ヵ国訪問の旅がはじまった。

行程はきわめて順調でありすべて予定どおり行動することができ，それぞれの首都で世界一級の名所旧跡を拝見し遠い歴史にふれることができた。ヨーロッパ大陸は，古代，海底が隆起した大陸であり，石の上に都市が発達したのが今のヨーロッパの国々の基礎である。石を文化の基礎として，遠い過去を石に残し，今の夢を石に刻み伝え，それが大きな歴史と伝統になっている。石の城，石の寺院，家，橋，道路，彫像すべてが石である。王は権力を石に築き，人々は生活の余りを石に託す。大陸ヨーロッパは石の文化である。石がそこにあるから石を彫る。石を築く。日本の木造文化とは比較にならない。日本の300年は遠い昔であるが，ヨーロッパは簡単に2000年前の話となる。本当にスケールが大きく，そこに石と木の差がある。

しかしながら日本のすばらしさも今回の旅行で実感となった。それは経済であり治安である。つまり経済大国であり，治安は先進国の中でも一級である。カメラ・自動車・パソコン・時計，どこの首都でも日本の企業が大きな看板を一等地に掲げている。ウインドーのメインには，日本の製品が大きな顔をして座っている。真に日本は大国である。次に治安である。どこの国でもスリ，置き引きと，大変注意を受ける。現に街を歩いていても目につくのだ。警察も盗られる方が悪いといい，問題にもしないとのこと。しかし外国でこんなことに気を使うのは何ともいやなことだ。単一民族の日本と異民族国家との違いもあるが，なんといっても日本警察のニラミと福祉の充実に原因がある。とにかく治安は日本が一番良い。これは我々日本人の誇りでもある。

城壁のある都市トレード，ヨーロッパ中世型都市

科学博覧会のテーマ，人間・居住・環境の充実調和，つまり文化を振興して豊かな人間の心をつくる。次にゆとりとうるおいのある住環境，またきれいな水，さわやかな緑。ヨーロッパ諸国にとっても，工業の発達，都市発展，交通の発達と，18世紀産業革命以来人類の夢が現実のものとなった今日の新たな問題として，心の荒廃，都市の過密，環境破壊等があらわれた。つまり18世紀以降の夢がもたらした世界共通の課題，それが科学博のテーマであり21世紀への夢である。

なお，今回の公式訪問は，オーストリアの首都ウイーン市庁における都市交通体系，都市計画と公園，文化財の保護。イギリスではロンドン市庁を訪問，都市計画，都市の再開発。フランスではパリの福祉的財団クロードポンピドー協会の指導員と社会福祉制度について，それぞれ意見を交換した。都市集中を解決するために，旧都市部の再開発，公園の設置，道路の整備，都市の緑化と環状地域への都市機能の分散化等日本の都市問題と共通した問題をかかえ，住民の協力と財政措置に頭をかかえているようである。社会福祉については，日本のそれより役所依存度が少なく，民間の力を活用している。ボランティアの活動，宗教団体からのあるいは会社・個人からの寄付を大きな力として福祉活動を展開している。日本とは大部違っていると思われた。いずこも同じ良き行政推進のため，懸命に努力している行政マンの姿だけが印象的だった。

## 2．スペイン共和国の印象

ここでは4ヵ国のうちスペインの印象のみを記してみる。スペインは欧州大陸の西南部イベリア半島の大半を占める。我々の訪問した首都マドリッドは半島の中央部に位置し，内陸的な気候で雨が少なく乾燥している。2日間の滞在期間中も日中は40度を越す暑さである。しかし乾燥しているため，日本のそれとは違い不快感はあまりない。社会労働党が政権を掌っており，一番の問題は失業者の多いことである。日本が上手に乗りこえたと言われるオイルショック(1973年・1979年)の影響が尾を引き，国際収支の赤字，低成長，インフレに悩まされ，労働人口の18%が完全失業の状態であり，240万人に及んでいる。特に新規卒業者の就職がない。大学を出て郵便配達をしているのは当たり前の話である。ホテルの前には「3本シェンエン(千円)」の掛け声がする。皆若い青年の扇子売りである。少年も混じっている。大卒・中卒の若き失業者達であろう。しかしながらスペイン人の陽気で親切で音楽好きな，いわゆる陽のイメージは変わっていない。

### 〈スペイン広場〉

スペインの小説家セルバンテスの長編小説「才知あふれる郷士ドンキホーテ」の主人公ドンキホーテと従者サンチョパンサの像が公園の中央に座している。理想に燃える主人公と現実的な従者の，対象的だが相互補完的性格の創造が評価特筆された小説であり，世界的に有名となった。特に立派な公園でもないがマドリッドの誇りとなっている。

### 〈プラード美術館〉

世界一級の美術館といわれている。コレクションも多く，スペインはもとよりイタリア・フランス・オランダ・ドイツなどからのコレクションもあり，2269点を数える。中でもゴヤ，エル・グレコの作品はすばらしいものがある。

### 〈トレードの町〉

中世に起源をもつ歴史的都市トレードは，町そのものが城壁で囲まれ，軍事的な防備を備え，キリスト教支配の時代に建設されたカテドラル大寺院は，キリスト教王国トレードの昔日の栄華を象徴するものである。1227年フェルナンドIII世の命によって創建され，実に266年の歳月を経て完成したといわれる。すべて石づくりであり，本堂天井は30mの高さがある。高窓のステンドグラスが夏の日に輝き，それは神秘的であった。城壁の中の都市トレードは中世の都市の姿をそのまま伝え残している。城の中に宮殿・教会・街並・市場をそなえ，都市を形成する。日本の城と城下町の形成とは大部異にするものである。

## 3．おわりに

偉大なヨーロッパの国々の栄枯盛衰は世界の歴史であり，21世紀へ向けて日本の未来の姿は世界の趨勢となり，その責務も大きなものとなることであろう。

また私個人としても，今回の旅行に参加したことが良い経験となり，いくらかでも公務員生活の上で役に立つこととなれば幸いと考えております。

なお紙面の都合もあり，一部の紹介で終わり，かつ拙筆であることをお詫びしておわりと致します。

カテドラル大寺院・キリスト教王国トレードの昔日の栄華を象徴する